

畧譜

仲心
仲舟

二百一冊内

十一冊現共十一

内閣文庫			
五六 函一〇 架	二二 冊	三六〇 八八 號	和 書 類
九八才			



内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(88)
函號	156 17

共十一



仁守の号は... 劫解田家範
... 天正九年二月... 劫解田家範

劫解田 劫助六

家範

劫解田

小室家... 劫解田家範

武家... 劫解田家範... 其首... 劫解田家範

七年以系氏野山陣の時
 榎本より敵を来り家死す
 ありしに陰に全進致すといえ
 二年信玄を討つて其の時父の
 命を奪ひて後をすといふ
 年十二月十日日之
 軍切有信玄藏人の師の腰刀及
 兎と物勝力いり田原宗信神ありといふ中
 海前より信玄家より後を田原

あつたをたふしたるは
 今中心候より信玄の師
 〇五年元平佐理
 城より小節寺に致し其後とす
 〇日本元平の天保地流として
 武田勝頼を以て其の討つて
 天保川を以て家死すといふ
 元平は其の討つて其の時
 武田勝頼を以て其の討つて
 〇日本元平の討つて其の時
 武田勝頼を以て其の討つて

未久一日前乃氏耕山苗を以て
時家死に言ふはく運命に於
ては命を何れも力と弱くちりさ
らじと誓ひいりて好む所父母の爲
小命成すをいひあがりて運命に
しつゝ眼をこりて死すは去年
入山して遊名なり院に接致す
乃ひて家死一店を借りて切願
と教度倫と命とをとりて監病致す

と申し怖畏して道を通りて家
死を死後拒致すを深疾し利
家吉奉初候なりて今もに何と
小命并接樂助よりなり彼も言
故に倫のまかりて死す命を助ふ
二人は多岐にゆく家死を言く家死
あしと云ふとそは深疾を故に早
に奉のり利家死すをいひて山
系し妙なる候に泉と云ふ者

ふ家名にうたふと名一と首と凡と
の載榜一陰一動解は凡と名
しう南東城守の人と一其首は
取一しう中をたれき流し入道名元
其首は成持一城中又のり武
別一紹藤郡一かたは中山村は二手
小英

の比奈家の令旨にう甲列の援え一
くお法のとて武田たし助より長力

一振綱新を流馬のまふ一中山浦前も信をり
ゆうゆうゆうゆうゆ
口付信をり一松毛柱一と殺法目根
即後比奈系系掛懸一なる文

照守

初家守

初家守 初四六

比奈家は比奈の守と年守初文

延慶二年合戦の時場所あり首級
 とす時ありしに東底と家ありしは
 川氏と野村様より戦ふ事あり
 義経と東底と河内道より実あり
 敵とありしに東底より信あり
 威ありし。○小栗氏佐世の城と小
 野幸吉合戦の時家元首級敵と大
 場をとりし家元危く見たりし
 照と延慶二年の長尾氏と

野村為南守の時敵ありし味方不
 利ありしと平と筋あり防戦あり
 天正十六年筑前合戦の時進あり
 政入とたふ徳と合父持物成敵
 ありしと延慶二年の東底ありし
 持物と延慶二年の月八年三月
 あり父と東底と馬場と流あり
 ありしと月年七月山田京流あり

揚子海をとりて依りて洋島討
照守らむし今日の勅 洋島討
思ふ言は意うく 洋島討後同
年十二月廿六日信多丸秩三首石
○四月廿八日乙未和三年有
上信介忠輝の洋島討よりて
長濱より退きの事
長濱退散 上信介忠輝の洋島討
とるる事は長濱より退きの事

洋島の事むあつて言ひ成し
張勳神附しきく 西島の事
の事とておれ平りのあつては
何れは意らむとておれ長濱我
史におりし事今もたつて付し
長濱今も事とて其志誠誠地
中依りておれ事とて其志誠誠地
あつて事とて其志誠誠地

意なきことには國の討つるに我等も
又かたしあはれなきに用なきに
懐中より信刀を取りて討つるに
ふそくしはばあはれなきに必怖せ
しものるるは其のこゝに雷威は為
るに其のこゝに雷威はすすを
あはれなきに

忠祥人よは此の漢方より忠祥は

小様をうけたり又勅を中照と内友
和仁と使へり信取返すは
なほ世討て人にはあるに
信あはれなきに西種は
し照もつては百人は
信あはれなきに又
くは信あはれなきに
月有の紅葉敷は深山に
水は年々月々信あはれなきに

應二年二月廿五日
治之平二月廿五日
三月廿五日
七月廿五日
八月廿五日
九月廿五日
十月廿五日
十一月廿五日
十二月廿五日

中山勅令所
新府政務
九月廿五日
八月廿五日
七月廿五日
六月廿五日
五月廿五日
四月廿五日
三月廿五日
二月廿五日
一月廿五日

二百隻を以て。日年十二月廿一日
今之故時胎之難哉。方今事未
日也。浪百枚より。○貞享元年
十二月十二日。江戸。○
上意。○如秋。百名。○日二年十二
月廿一日。江戸。○
十二月廿一日。江戸。○
日。廿一日。江戸。○
六月廿一日。江戸。○

初向。江戸。○
年の。江戸。○
日。江戸。○
く。江戸。○

寺に事

市に座

會
貞次

馬。江戸。○
新。江戸。○

常憲は成しお指す。寛永十二年
四月廿日、海人の切取
時切腹の事には事、成絶子孫
此教よらむ。

勅使 和物六

直房

寛文八年十二月十九日
御入。是年三月廿九日、

但○寛文八年十二月廿七日
以後全及○同八年十二月廿
九日、御入。是年三月廿九日、
御入。是年三月廿九日、御入。
○之様、六年三月十日、御入。
同八年十二月十八日、御入。
同八年十二月十八日、御入。
同八年十二月十八日、御入。
同八年十二月十八日、御入。

○同十年七月日皇元日即位
○同十二年九月十日皇太后崩
○同十三年十二月二日大德寺
代同十三年十二月八日皇太后
崩
○同十四年十月十日
崩
○同十五年正月十日
崩
○同十六年正月十日
崩
○同十七年正月十日
崩
○同十八年正月十日
崩
○同十九年正月十日
崩
○同二十年正月十日
崩

○同十年七月日皇元日即位
○同十二年九月十日皇太后崩
○同十三年十二月二日大德寺
代同十三年十二月八日皇太后
崩
○同十四年十月十日
崩
○同十五年正月十日
崩
○同十六年正月十日
崩
○同十七年正月十日
崩
○同十八年正月十日
崩
○同十九年正月十日
崩
○同二十年正月十日
崩

貞安

劫七

○同十年七月日皇元日即位
○同十二年九月十日皇太后崩
○同十三年十二月二日大德寺
代同十三年十二月八日皇太后
崩
○同十四年十月十日
崩
○同十五年正月十日
崩
○同十六年正月十日
崩
○同十七年正月十日
崩
○同十八年正月十日
崩
○同十九年正月十日
崩
○同二十年正月十日
崩

貞治二年正月七日公死因年
小年家断

貞治

圖書

長官又七席告子之好之夕至
其年公之病之重也書後自之
祿二年正月七日公死因年
公死後公之病之重也書後自之

貞勝

監物

實中心動海由由居次曹

養子之病之重也書後自之
公死後公之病之重也書後自之
公死後公之病之重也書後自之
公死後公之病之重也書後自之
公死後公之病之重也書後自之

来

肉虎也

家猪八百名。元禄十六年六月
十一日死之。同日卒。

真心

勘解由 初彰在号 物六

天和二年七月十一日。故令。元禄
十六年十二月九日。卒。

○月十二年。閏九月十日。故令。元禄
十六年七月八日。卒。同日卒。
○月十六日。卒。同日卒。同日卒。
○月十六日。卒。同日卒。同日卒。
○月十六日。卒。同日卒。同日卒。
○月十六日。卒。同日卒。同日卒。

直書

劫解由 劫形及在考 助六

室永六年七月十二日十二日
初子二山徳年六月十六日
同年六月廿日劫解由
保口年十月八日永性組
年十二月十九日去坂員代日九
年二月廿八日永九月廿八日
同十二年十月七日永行社系

の村右衛門判子月廿七日
十二年九月廿日死于一國同守
に身

直書

劫解由 劫形及在考

室永十三年十二月十二日
同九年劫解由改日十三年

二月廿八日初見○之文○五年九月
丁亥日使書○曰○本年六月六日
頃國書○七月廿八日○所○市
心○今年○二月廿八日○府員見
○寛保二年四月下○病○曰月
十七日死○于○七○年○

唐順

初車輝

初解也 如伊丹柱石

實由者 汝曾 油母の氏

寛保二年七月二十日家督○曰年
八月十日初見○之文○四年二月
十日使書○曰年二月十日之文
初尾城○曰年八月十日○年
七月廿八日○曰年十月十九日
布衣○寛保二年八月十日○府
官○十八日○曰年十月十日

歸湯の門七年十月五日死年九
年八月五日葬

勘解由初新置石馬

直寛

宝曆七年十一月廿七日家傳○
明和二年正月廿七日初之在永
六年二月廿七日没之○同年十二
月九日初之○同七年八月廿日

後府員月十二日初之同年十二月十
日初湯○本出八年八月廿日小
曾信但之死○天保之元年三月
二日初之○同二年十月廿八日死
二年九月廿日葬

直隆

興 初賜姓

天中山園坊中直隆

貞有
天保三年十二月廿九日
○月年十二月廿九日
貞有死年六歲

勝左郎

貞有
天保三年十二月廿九日

散有院殿
清十景の時
一幅おん

加治勘解由左衛門尉

家範

始古苑

天正二年正月八日
皆傳之禮文
禮文之字在左

宗才就桃公也

年以畫粉骨後

之宗家母成也
渡筆亦亦出亦
一人之身也
禮文也
論之者
通之公何何

宗才就桃公也

天正二年

三日月宮實心刺

加治勘解由在為封

加治勘解由在為封

與守

始家守

夫公今年二月五日父家範在津奈
流書物書紙原自中山田東
城守手送公
家範書物字反色

乃
于
家守

度就之也

西之

守以命

位

知

後

家

...

信

...

...

...

...

...

...

右徳流極

大猷流極 江戸橋南

家道 守憲 勝徳 文安 家範 書狀

右徳流極 上院 家範 其 家範 上院

家範 家範 徳文 家範 家範 家範

家範 家範 家範 家範 家範 家範

家範 家範 家範 家範 家範 家範

家範 家範 家範 家範 家範 家範

大猷流極 家範 家範 家範 家範

右徳流極 家範 家範 家範 家範

家範 家範 家範 家範 家範 家範

家範 家範 家範 家範 家範 家範

家範 家範 家範 家範 家範 家範

家範 家範 家範 家範 家範 家範

家範 家範 家範 家範 家範 家範

家範 家範 家範 家範 家範 家範

台使は依法執事を極す

上覽より極りて照書上家より極す

郡守に候す

上とて置座の極す

沙書より上とて照りて事

沙舟より上とて事

上とて家より上とて事

事より上とて事

清伊人使より極す
照書より極す
則

清意より極す

清言より極す

清威候より極す

下り名家より極す

上り名家より極す

丸粒お探を... 冷味... 江油府... 上管... 丸粒の中

右使位... 者大...

此等老年... 丸粒... 丸粒... 丸粒... 丸粒... 丸粒... 丸粒... 丸粒... 丸粒... 丸粒... 丸粒...

在角計時君為 石の沙州織 津重法
 下五公思守代公將重是代と
 津重津重二平足又足津重中よ
 位一津重法と云石同四公よ
 中平中よ津重中よ中よ進繩中よ
 小中同中よ中よ中よ中よ中よ
 中よ中よ中よ中よ中よ中よ
 中よ中よ中よ中よ中よ中よ
 中よ中よ中よ中よ中よ中よ

右の書は神皇正統記はあまの

右書は神皇正統記はあまの
 日向美良 忠臣公清徳
 千祥先流千道守道徳
 神月更要以奉相傳
 記神也
 外

加治勘得由在書尉

予時慶長之種傳之上衛 家書之判

進上内史云

右母一冊、目錄之馬、宗方、

一流、愚拙、之、是、悟、之、所、以、得、也、

深、口、傳、之、事、也、者、之、事、也、也、也、也、

進上内史云、宗方、

加治勘得由在書尉

宗方、

家書

進上内史云、宗方、

加治勘得由在書尉

真定

年号月日... 父照守... 御寄信...

大猷... 御寄... 御寄... 御寄...

御寄... 御寄... 御寄... 御寄...

御寄... 御寄... 御寄... 御寄...

御寄... 御寄... 御寄... 御寄...

御寄... 御寄... 御寄... 御寄...

御寄... 御寄... 御寄... 御寄...

御寄... 御寄... 御寄... 御寄...

上流福はるかきし市街より西に在り
八景の家馬術を伝へて思ひ人傳へ
傳受は名家 上流の流は保来
中流定痛氣うききし流は保来
六車舟切少きし流は保来
重犯は傳授の流は保来
牙親少き流は保来
家法を傳へし

監守流

加治流

真流

正保年中は上流の流は保来
傳授は名家 流文流書物も不流流
最上流は保来 流文流書物も不流流
正保年中は上流の流は保来
傳授は名家 流文流書物も不流流

車守初

加治丹波守

車守

車守初少月劫之席車靴上系馬之術
如所引之義及車定之車靴上之台公備十
七本之云云皆所法也凡處病氣之云
云之家續經云云有子命之也云云
所授之法及所行之事皆法也凡先例通
車靴之靴之也云云作有後之系馬

之家法相續

加治市

車守

車守

車守初月日不知見母波云云車守之術
皆所法也

敬者此紙中代有之字云云以月有度
車守初月日不知見母波云云

常憲法存正清揚南中上元寬文之
辛丑年丁未月十七日孫河守
方所持江表

寬文十二年四月廿七日論之復
人切其身脚时切腹法存公案家
之之制断絶法

劫之部重死後

加治劫之部

貞照

如法市之重事死云云馬洲之部以
此有如母時之重事之重事之重事
劫之重事照馬洲之家如法力任
候重事之重事之重事之重事之重事
重事之重事之重事之重事之重事
間重事之重事之重事之重事之重事
之重事之重事之重事之重事之重事
後重事之重事之重事之重事之重事

在漢法其後事以爲海濱法所既去
我地多古法也

加治劫之矣

真書

重原之申年八月下野書車好痛
氣有本多伊城寺殿上高同書書
之公之之之之之法中已劫之重書方
信後之法也候之何之也何之何之

年十月十日印之也汝作何如漢法

右劫之應直方之文亦年二月古百
病死法有公等以書之法名選結
成之術法書物公余之何書實臨分
汝之亦家死也思之也書快者如方
之也事以候今之書法法多之
右通通通通通

寛政十二年正月中山藩主御書

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

東照宮御代

中山

高千三百石

藤原姓

家紋 九内番菱
五三之桐

中山民部大浦勝時書

五平次

勝為

天正十年明智謀反之時

平右衛門

十

勝身

曾者永井豊前守直直曾

寛永十年曾者二十一年

新起西性五百俵。卷子。

中尾院五。寛文二年三月廿六

家者。延寶七年九月廿八日

二百俵令八百名所造額。同年

十月布衣。天和二年四月加

此五百名令千二百名。元禄二

年正月十四日先子千二百名内

二百俵。此等。此引。此等。此等。

早下年十月。此等。此等。此等。

十一年。此等。此等。此等。

永享。此等。此等。此等。

年有九月九日七年七月七日
寺

重之丞 十玄清

勝百

元祿四年十月三日
五年七月廿八日
年四月廿四日

十有月九日
同九年十月
同九年十月
同九年十月
同九年十月
同九年十月
同九年十月
同九年十月
同九年十月
同九年十月

勝豊

壬水

元禄九年七月... 德... 永五年... 九月... 十月... 十一月... 十二月... 正月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

勝富

平衛門 重治 年水

光原 發任 幸休

享禄十三年十月廿三日... 同日... 同日... 同日... 同日...

十一年七月十日。通事。○
明和七年。皆月。○
年。十月。廿。病。之。合。○
二年三月。○
十九。九。八。十。五。年。○

五辛次 重 左

愛勝

天明二年三月廿七。家督。○
九月十九日。初見。○
同日。年。五。月。○
十日。書。後。書。

信院殿代

武雅
可出

中山 義

藤原 雅

高平 康五 扶持

家教 丸内 景茂

大藏 冠 舞之 八代 後 高 儀 藤 大 秀

卿 十二 世 孫 河 村 三 郎 義 秀 次 氏

川 村 次 次 郎 玄 宿 氏

天 正 十 二 年 根 兼 寺 守 山

東照宮秀吉兩使中條元正等出采

敬處不從秀吉婚依

東照宮中條元正。天正十三年尾州敗

長久子山崎島之平死於相率其大

坂表上出陣往連。秀吉大坂之陣

北宮宮中細川越中。豐田筑前守出陣

一戰自勝。岸留邊出陣。出陣後

院身相進。倉山。上野軍倫次。戰勇

烈福康。若。慶長五年。關原

中條元正。日七年。根。節目。日

北。至。字。三。扶。大。兩

度。中。日。尾。家

中。先。年。出。陣。伏。見。山。崎。島。之。平。死。於。相。率。其。大。坂。表。上。出。陣。往。連。

秀。吉。大。坂。之。陣。北。宮。宮。中。細。川。越。中。豐。田。筑。前。守。出。陣。一。戰。自。勝。

岸。留。邊。出。陣。出。陣。後。院。身。相。進。倉。山。上。野。軍。倫。次。戰。勇。烈。福。康。若。

慶。長。五。年。關。原。中。條。元。正。日。七。年。根。節。目。日。北。至。字。三。扶。大。兩。度。中。日。尾。家。中。先。年。出。陣。伏。見。山。崎。島。之。平。死。於。相。率。其。大。坂。表。上。出。陣。往。連。秀。吉。大。坂。之。陣。北。宮。宮。中。細。川。越。中。豐。田。筑。前。守。出。陣。一。戰。自。勝。岸。留。邊。出。陣。出。陣。後。院。身。相。進。倉。山。上。野。軍。倫。次。戰。勇。

右 彦目川村大團圓章勝

中守助 川村助 壽山

章武

享保元年父章勝家督百人組目
○享保二年三月大窪山陣討伐。同
十三年四月日光山陣討伐。○寛保三
年討伐。○明和二年二月十二日死

十年志氣奔首當馬場中振言
周寺 高村百人組目川村大
郎章勝家督
右章武章

忠助

○ 武雅

宿曆七年十月新及西條山院

七年保五林特。○日平二年九月十
三日。保五林特。○明和三年八月
廿九日。日平保。○日平二年三月。日
植本。○日平保。○日平保。○日平保。
○安永二年七月。日平保。○日平保。
勤勞。○日平保。○日平保。○日平保。
才改没。○天明七年十二月廿九日。
日平保。○日平保。○日平保。○日平保。

世平保。○日平保。○日平保。○日平保。
吹上天的时服。○日平保。○日平保。○日平保。

長之態

一吉

天明八年四月廿八日。初見。○實政三
年八月八日。世平保。○日平保。○日平保。
日平保。○日平保。○日平保。○日平保。

大納時服二。同九年九月廿七日。上
草麻反物二。同九年二月晦日。
同九年三月晦日。同九年三月
二。表山若者。同九年四月十九日。
餘洲反物三。同九年五月十九日。
吹上馬洲反物三。同九年五月十九日。
七。於而重。世問。以。建。反物三。同
九年九月十九日。

後明後殿。十三面。山。是。山。建。事。山。用。也。也。
手。懷。銀。五。枚。同。年。十。月。廿。二。日。
手。懷。金。五。枚。同。年。十。月。廿。二。日。
手。懷。金。五。枚。同。年。十。月。廿。二。日。
手。懷。金。五。枚。同。年。十。月。廿。二。日。

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

東照宮御
[Faint vertical text]

中山

高七多也

藤原姓

家教 三喜後 九喜後 三喜後 五喜後

中山宮部大浦勝時曾中務省門

勝政長子

氏重門

忠光

天正五年之頃水野忠勝屬重臣
○同年長久寺戰刻功名仕
○同年小田原城
取討村山等村
太閤帽子
銀錢給下以所給○同年十月
東照宮被築○同年九月
於德川國武喜郡下家山新物集
元和二年五月廿三日將忠勝口

○慶長五年關原陣成
○同年關原陣功倍加
秩二百石合六百石大書○同年
七月十四日二年五月某葬
高野山

忠勝

茂左衛門

慶長三年家督。○同八年大
中書。○大政兩攝。○寬永十
年加封二百名合九百名。○萬治二
年十月四日。○西之保天
德寺

權左衛門

勝久

寬永九年賀。○同四年大
御者。○萬治二年家督。○同三
年十月廿五日。○延寶
二年三月廿六日。○同

權左衛門

勝尋

萬治元年賀。○寬文十二年

權左衛門 長火呼

勝部

享保十五年四月朔初見。同年
十月廿七日。家督。同年四月
九月廿三日。延享四年十月七日
山崎戸。同年布衣。同年十月
三日。

後明後曆。宣曆十年。山崎戸勤。
同年九月三日。瓦城。明本
七月廿三日。病死。享年。日五年。月
十五日。卒。一氣葬。同寺。

權左衛門 彌次郎

勝直

宣曆十二年四月十八日。初見。明

善美山莊。日。年。月。日。
公。和。山。莊。將。出。成。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



台德院殿御代

中山

高三首集

丹治姓

家。秋。外。秋。月。秋。

中山縣解由也守物

其。園。名。

守。膳。

會。者。高。山。才。園。系。長。

台德慶中代中山勸解由與寺上内并之
内島洲正者以壽之册守勝能
此册上之處物送苗字為名意
極上之意之故高山之中山上
新設三言俵也馬頭。實支六
年三月上元并大塚寺傳寺



某
本在舊門

年月考部屋位中山性理。山島
以類。○所成之水島兩前
水元并同寺

守安
勸園

實者高宗御書

年月之考考之陰之亦考子。寬
文元年七月九日家督中馬於。元
禄十二年正月九日葬回寺

勘書

守重

元禄十二年四月十八日馬於。回



歿

室高年十二月九日二百石の位

年七月九日家督。元德四年有
光葬回寺

勘書

初 世之風

守宣

元德四年八月廿三日家督重書得
。寛保十九年十一月。寛保二
年七月九日葬回寺

三四郎

寺直

實者伊東忠尚祐矩三男
寬保二年十月三日春子生也。延
享三年十月西條半人。應曆
二年十月病免。天明八年七月亦
之。實政元年十月九年



四氣新同寺

鯛

克臣

實者福田孫次郎安住次男

安永四年九月廿五日。天明八
年七月廿六日。享和元年十月
廿六日。同四年九月廿六日

信康 源成守 五郎 五郎

信康

平直門 主馬 利直

水原光 曾者中山夜前信治曾

寛文三年卷子。天和三年三月
初見。同三年九月廿五。
平直門。元禄八年二月廿二。平
直門。同十二年十二月七。

水原前納言殿病氣為山尋水
原直直。曾者三年十月廿
五。同九年十月廿八。
叙爵。曾者三年七月廿五。
中直殿山尋山直房。同月
廿七日。直之。直直。直直。直直。
六。同八年十月廿五。直直。直直。
白髮。直直。直直。直直。直直。

○同平年八月廿九日。病之。家令同
身去。九月廿九日。○同平年二月
廿六日。死。年七。葬。日。

至馬

信敬

享保三年八月十八日。初見。○同平
甲子廿六日。若年。家令。至馬。日。

同平年十月十九日。家令。○同平三
年九月十三日。西。家令。院。元
文三年九月十六日。元。年。三。年。
葬。日。

信將

至馬

金

會者。留。至。膳。一。仲。波。

元文二年九月十日卷子。○同年同
 十月二日家督。○享享三年四月廿八
 日。○享享三年七月廿八日。
 中書院。○享享三年三月廿八日。○
 使事。○同年八月十日。○駿府。○
 日。○同年九月十日。○明和八年
 四月十日。○先。○中。○同年
 二月十日。○大。○改。○安永

甲子年十月十日。○病。○享享。○天明
 八年七月廿六日。○享享。○享享元年
 二月廿六日。○享享。○享享。○享享

信卷

三島

大助

明和七年十月十日。○初見。○天明
 八年七月廿六日。○家督。○享享七年

八月五日 中書性

[Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]

大猷院殿御代

中山

布名

高六百石

丹治姓

家数外取内月
虎殺

中山勘解由忠守重

勘三郎

直範

寛永二年七月 初七日

年三月年六父遺跡三年五百六
足助六百定山年足自定都屋位
利五百七重置○寛永十五年所
書院書○駿府書書再越五年日在
七下原馬馬山用有被百端
重筆處少意○

嚴有院殿西内移院之部山附山性組
八家馬洲之委儀之役去物領之入

傳授河任分家上意院山性之慈
正保年中足助解由首定病氣身
乘馬也其時首守知女之再書一
内成之世甚三所首乾傳授可
法同道被 作月則家之
法上傳八至各書物未得而
明曆二年十二月八日

嚴有院殿山馬山性之役上

中山丹波直子
元禄二年七月
長持所
免下
中山丹波直子
長持所
免下
中山丹波直子
長持所
免下

嚴有慶
所筆
願載
乃長持所
外
免下
中山丹波直子
長持所
免下

勘之由

直子

台邊院敷
中山勘之由

直子
中山丹波直子

實文四年七月廿四

元禄十年

三月病先

三月十日所寫
中山丹波直子

直安

勘定書門

實者中山勘定書門
卷子。實者七年十月廿七日。元永
○實保元年十二月七日。元永
麻布百對所守之院

直方

勘定書 元永八年 五月八

實者中山勘定書
水戸殿家生

實保元年十二月五日。元永
請。實保二年。初元。同九年十
月九日。中山勘定。同十年。同
十九日。病免。元永五年。同月。平
元。元永并麻布百對之院

貞平

勘
吉三郎
菊雀

水戸藩
會者中山家其三

元文五年四月二日
家督

同月十九日初之
實保元年

十月十八日西丸
延享二

年九月

大府殿
○清曆元年十月十日

貞平一
同寺

直敷

三

八

寶曆二年二月三日
○同

三月十八日初之
○同七年十月

年十月西丸
○同七年十月

四日
○其

度。安永八年四月十六日。御事。安永
。天明元年五月廿三日。御事。同
年閏五月十八日。御事。同
。同二年九月廿九日。御事。同
。同三年五月廿九日。御事。同。

直温

豊吉 終極

天明二年十二月四日。御事。同年
十二月廿九日。御事。同
。同二年九月廿九日。御事。同
。同三年五月廿九日。御事。同
。同四年十月廿九日。御事。同
。同五年十二月廿九日。御事。同

Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

常憲院殿御代

中山

高三百俵

丹治姓

家数計取内月
唐教

中山勘解由
與守孫中山孫國直張
勇

直道

市口

内膳

始於永治中納言成相士。○元祿六
年正月朔日。中書三官儀。○日皇
幸月山寺。○日皇幸信。○日八年
九月山滿。○日皇幸。○日皇幸
元祿六年。○高麗。○中符。○信等

任國門 帶口 蓬 秀山

直書 會月

實者中山觀音門信定重

元祿十二年七月十日。家督寺
合。○實永年十月十日。出性
組。○日皇幸十月十九日。病之重者
情。○延享二年十月十日。其重
○實曆二年十月十九日。元
少名川祥雲寺

帶刀

研宮

百武

會者百武之孫大正改元
養子。延享二年十二月廿七
者。同身十月十六日西丸
性。○清曆二年二月十日
伊成之鳥射當時殿三。大
之。○同三年八月十日

葬回寺

茂衛門 多倉 勘

直世

清曆二年十月四日家督。明和
五年二月廿九日伊成之鳥射
十月廿七日伊成之鳥射當時
晦時殿三。實設十年二月十日

病免子孫傳○

亥三所

直通

實政三年三月廿三日

○日守年十月廿日

十月廿九日

等稱所成之

大猷院殿御成

中山

高九百五十五石

丹治姓

家紋

中山勘解由四守卷二頁

甚右衛門

信良

曾者長布右衛門

實父為重慶長身也。中宣王。曰。三
年於駿府。言身名。○元和年中。故
方。浪人。其以長男。名。林。和。云。云。
養子。成。信。云。云。身。月。日。云。云。母。云。
叔父。之。緒。係。云。云。為。實。三。重。○慶
長十七年。十二。云。云。○
上。云。云。○
六百。云。云。下。云。云。○
承。應。云。云。

十有七年。云。云。○
葬。云。云。○

信定
勘。園。門。製。命。素。入

承。應。元。年。家。事。○
十。月。十九。日。○
年。二。月。廿。五。日。○

養子○寛保三年三月廿六日家督
 中書清○同年年七月十二日書
 院子○寶曆九年閏七月十日病
 死○享和八年五月十二日
 卒○同日葬○同日

信勝
 長門
 外記
 勘定門

實者三子備中雄略四男
 明和七年九月廿三日葬養子○同
 八年八月廿三日葬○安永二年正月
 廿三日葬養子○同年五月七日
 葬戸○同年十二月十日葬○
同年閏四月十日葬
 寛政五年十月二日葬養子○同
 年七月八日
 通南前交長敷葬死○同日

直次 市之丞

内堀三喜丸。直次
直次。市之丞。論之
浪切。叔腹。氏。孫。

石。慶安元年七月十日初見。
同三年九月三日。出書院番。
嚴有院殿附。延寶八年九月。於信州
和事。水野信康。病死。之。初。檢使
出。服。同。日。年。十。月。晦。九。甲。七。年
葬。武。少。加。治。郡。中。村。延。仁。寺

主税 内記 野守 長 下野子

直好

延寶元年十二月。初見。
同。八。年。十。月。家。督。少。老。務。
天和元年。出書院番。同。年
中。身。在。番。同。三。年。出。遣。
直。享。二。年。叙。爵。同。三。年。小
普。請。同。日。年。十。月。出。遣。同。

四年高麗流八年高麗家傳
相續可居被仰中島島
直道傳授下。○四年小
善傳入。○元祿七年十二月
中與作事。○日平年都了所武
國新府那薩濱村上總武對
郡成集村。五音石印用日上
書替中後香而郡新希場村

松村山野道村三村。高六百
八十二名。四并九合三下下置
併百八十二名四并。○元祿十四年
九合三下下。痛。○元祿五年
快氣。○七領年始也禮山流頂
素村版拜領。○元祿十一年五
月十一日。元祿十八年蘇洲國寺

外記

直兼

直延

元禄十五年初見。○享保十三年
八月十九日家督。○同十七年閏五
月十六日對江。○同十八年八月廿三日在
十五歳葬。同寺

伊織

德殿

直武

曾者直好重

享保十五年十月七日。卷子。○享保
十七年閏五月十五日。○同年
十月廿八日。○同年四月
布衣。○同十八年五月八日。○同
二十歳葬。同寺

藤原 加治 存

直教

員守 中野 保 守

實者中勘解由直者言

享保十八年九月六日

○四年十月朔元○實保元年

十月十八日西○中初○日年

十月十三日布衣○延享二年

廿五

信原殿中奉丸中移替

二年十月十日忠性○四年十

二月十日叙爵中野○實保元

年十月十九

後明後殿附○實曆二年十月十日

後明後殿附○實曆二年十月十日

著百回書山程氏金後附服
貳。後

後附服。卷物二。○順曆五年正月
二。○山威之鳥羽當附服三。○同年
五月廿三日。○安永五年四月
九。○中流頭。○安永五年八月
御社系之儀。○同年六月廿七日先
手山号頭。○安永九年八月廿
山鏡七。○

藤本園門

重吉

直邊

寶曆三年三月廿五日
明和七年四月廿初見。○安永五
年十一月十九日。○中流頭。○安永元
年三月廿二日。○福光。○同年四月廿
物領除。○同八年正月廿九日。○
安永五年四月廿

伊織

龜結

直經

實著直還書

寬政元年九月九日孫孫孫。同
年十月十八日。同日。同日。
九月。同日。同日。同日。
九月。同日。同日。同日。

直與

要人

輝吉

勝雄

實著直還書

寬政十年九月七日孫孫孫。○
同日。同日。同日。同日。

梅屋敷



中山

雅意姓

萬二千俵之持

家致巴崩
殺權葉

先祖不詳

源三郎

利勝

元禄十二年浪人
於櫻田之殿

中彼損代元儀之扶持。○
 元年十月西丸山廣文伊智。○
 七年中彼代元儀合三年儀之扶持。
 ○
 同十三年九月廿九。○
 林寺

源氏
利及

同
 元年十月廿九。○
 天皇院殿山廣文伊智者。○
 元年十月廿九。○
 元年八月廿九。○
 八年十月十八。○

福。同九年十二月廿九日拂手金
奉。〇

源之助

利貞

實者百五与八海伴勇

天而七年三月廿九日。有書子。〇直後
辛卯九月二十三日。是

後田殿

中山

藤原姓

高百孝孝康之替

家致内藤内藤内藤子

先祖不詳

又在傳門

顯信

駿河大納言殿。中先。没智。三音

十年十月十六日接旨殿大
○所系元年一統書卷請○四年
者十八元九年二年二年并回寺

平衛門

源吉所

顯成

實者建澤十在衛門定舞會
宿承三年十月十日卷子多曾○

宣德五年十月十日表以之番○京
保二年三月十日見月○日七年
二月廿五日見月○元文二年
四月朔十日見月○延享二年
十月廿日加秩百俵合百五十年表
三之執持○日五年長將用是
○日年十月廿日殿金三枚附殿二
○寬延三年十月三日元五年歲

葬回寺

八十師

八十八

顯意

元文五年正月廿八初見。○寛延
三年九月二十三日。○寛曆二年
二月廿九日。○享和七年正月廿九日。

平七師

重吉

顯生

實者顯成會

寛曆二年五月七日。卷子家督。○
日寧年三月十八日。西條十人。○
早一年八月三日。本城勤。○月
年十月十日。

孝養院附。○安永八年四月十日。

所事史勤。天明元年五月廿九
勤。四年十月廿四日。頭。四年
十月廿九日。中事史勤。元政二年
十月廿九日。在事并同。字。年。元。

右膳

顯親

實者中野傳十郎道高治男

安永四年三月廿五日。實者。同
七年七月十九日。實者。天明
五年十月廿九日。元政二年五月廿九日
同寺

新五郎

顯貞

實者野山守左衛門兼清重男
天明八年五月廿九日。實者。元

政元年八月十九日初見。○同奉十二
日廿三日等。○

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

台德院殿殿代

中山

藤原雅

高直後五本執

家義 石解 自花 海三 國子



大禰冠麻呂後胤中山穴九所勝之
妻今川家臣中山穴九所勝光
長男上野國浪人中山穴九所
勝勝直長子

清光園門

勝重

元和八年渡人... 中... 巨...
○... 延... 承...
應三年... 元... 中...
新... 院

武園

當賭

明曆元年... 延... 承...
表... ○... 元...
同... ○... 元...
年... ○... 元...

買其先葬回寺

持勝 孫去矣

實父系

元禄元年拜喜子。同早三年
買其家督。同早年中從自
。享保元年病歿。享保。同早十

有孫在。同早二年其先葬
回寺

家督傳門

持重

享保二年十月廿二日家督。同六
年八月廿二日。同早八月廿二日
葬回寺

八節古園門

勝頭

實者中宮藤美持勝勇

享保六年卷子。同年十月十日
寺直中島見。同九年十月十日
川筋島敷生人住居。處不改
必不心掛之段中居有。其書也

宗島見一編。辛。遍塞。山見
○寬延二年四月十九日。中島見之直
○寶曆十年五月十日。山細敷。
明和五年七月十日。病免。同年
八月十日。對在。天明三年。同
十一年。年。三。同寺

勝喜

源八郎

寶者新執又奉關門秀道重
寶曆二年九月卷子。明和七年
八月十八。家督。安永四年有
廿二日勘定所書物用。同年
三月五日。許定所。再。日五
年有所用書物。銀十枚。日見

年八月廿三日。許定所書物。用。日
九年。去。亥。年。上。書。物。用。書。物。
初。勘。定。日。俸。五。人。日。年。日。天。明
四年。閏。月。廿。三日。勘。定。日。見。年
八月十九日。死。五年。上。書。物。用。書。物。

勝信

金沢師

胡天明八年十月五日

[Faint, illegible vertical text]

大猷院殿御代

中山

萬百俵五拾

藤原姓

家致元正

中山庄唐園門基

新南門

義信

寛永十三年新規中門七千俵

五八扶持。○同日身自奉火之由也。
○同日身奉火之由也

修月相初以名爲先兼身身月身不

知事兼傳入奉火之毒力奉火之毒

中知力四谷内及高一房敷拜

相身一傳一。延寶三年正月

廿二日此奉拜一由右川京

下正福院

伊藤園

信重

延寶三年二月十一日家督。○同日身

正月八日奉火之毒。○元禄五年

三月廿三日奉火之毒。○加秩

二年俵合百儀五扶持。○寶永六

年十月廿六日大奉火之毒。○享和

二年九月廿九日奉火之毒。○享和

彌生門

義登

西本寺多目

曾者平市在傳門義登
正德三年六月拜書子。四
年十月廿九。家督。孝子保
詠。二年十二月廿二。山廣敷添
事。同三年四月廿云。

傳圓後山廣敷添事。宣德七年
九月廿二。山廣敷添同寺

彌生門

卯

義棟

曾者山廣敷添事。宣德七年
宣德七年十月廿九。山廣敷添事。
十七年三月廿九。山廣敷添事。

延享三年正月二十日新設大東山殿
會長為中書信少用。○日昇
升月廿五日西九上中夜。○日昇十月
十日中移移子中書信少用。○日昇
慶銀之收。○日昇十月十日
奉命。○相動通中書信少用。○日昇
○日昇十月十日大東山殿會長
局為中書信少用。○日昇十月十日

日昇九月十五日中書信少用。○日昇
十月十日中書信少用。○日昇
慶銀之收。○日昇十月十日
奉命。○相動通中書信少用。○日昇
○日昇十月十日大東山殿會長
局為中書信少用。○日昇十月十日

有德院殿奉所。○日昇七月十日
奉命。○日昇十月十日
奉命。○日昇十月十日

中書清樞之書也。

中書抄附。同元年四月云云。

九神。同月廿五日。西元古動中書清

樞。同元年八月云云。

公親院殿附。同元年八月云云。

喜米院殿也。延建中。夏。自。所。為。用。

同元年十月廿五日。所。發。書。所。東。

早。夜。中。相。動。所。發。書。卷。物。二。

同元年十月廿五日。中書清樞。明和

元年十月廿五日。

中書抄附。廣文。同月。建。同七年

五月。西元。中。移。迄。前。新。規。也。是。矣。

西元。同月。廿五日。廣。銀。五。枚。

西元。七年。八月。廿五日。同。西。元。廣

敷。番。頭。同。八年。四月。廿五日。

西元。同。動。同。年。十月。廿五日。

勤。天明元年正月廿三日。西尾勤
○日身三月廿三日。先免。○日身
七月廿三日。在七午三。氣葬
同寺

彌重門 豊吉 洋吉

義晨

安永三年正月廿三日。初見。○天明三

年十月廿四日。家督。○日身七月廿四日。
栗丸半人。○日身四月十四日。慶
○寛政元年閏九月十九日。少妻清世
話取扱。○日身年十月廿四日。○日
年二月廿五日。世在扱。○日身閏三
月十九日。三百俵以下。○日身扶持
十人。○日身

[Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side]

嚴有院殿御林



中山

藤原姓

高千石

家茂三子後九内登
九内登妻五三桐

時定
可出

先祖不詳 中崩部山浦重時長男

五郎左衛門

民部大補

勝村

尾張國智多郡中内村邊山尾洞

秋河三可代領出下永祿元年
頃智多外水野下替言信元押領
保一少衆之松尾尾中其家屬
下野言幕下

傳通院殿時村之室言柿若此有教
下離別但依有所移村奉為卷女
久松依渡言定後下女嫁得回信長
言依渡言時

傳通院殿下田言武言勝村言遠下
。永祿二年言

東亞宮尾河下中言疎之村初言領出
道前教下傳言所言中言自之火繩
其百助教上商村調言品中言當三
上言田言中言創言為言立言置言筆言定言大
長刀持於中言切服持言直言會
勝政下傳言。先言葬言高野山

古様領了長刀勝政家筋初孫之初初孫是
方古傳介三所持

五所書門

某

天正三年

東照宮所屬中奉仕。水野和泉守忠

重直為附。元禄十一年水野於西

初年。赤備後福宗。百七家中

雜教山家海相多事

精書門

勝政

天正十年明智謀及耐

東照宮所屬高。越後守白子

中。百加足年五人卒五孫

引年。中。其後孫信雄

以上信雄初後 元正八年十月
 東宮宮下 百石於志國全陸部部了五
 百石中實大坂山等事動。慶長
 七年八月廿九日
 傳道院殿出遊去。初由道有。日
 遺物如前給之唐盆并史等并
 領。○同八年二月十八日。元正九年
 葬高野山

持領品形錄初時定之

東宮宮下
 酒有園門

盛信

東宮宮下 中宮宮下 皇孫 皇孫 皇孫
 有下世女子 百石 百石 百石
 和京宮史重下 高附元祿十年
 水野村 延和年 元家中 雜教
 ○所方 地入 寺城 國村 中山

市部時局

勝光 左門

大政印傳之時部屋の討死

植園門

重時

文祿四年

東照宮部屋在大政印傳時

○慶長十八年家督○寛永十五年三月九日死

十許在園門

政長

慶長七年三月廿五日

東照宮新規大奉進之日○三月

政長初死之時實任年十月十八日
小幡山守忠尚時也此之中山守園門

家

積善園門

幸時

通稱改

寛永十年部屋傳。伊達温三官儀。
早五年家督。元禄四年八月
卒。葬西條天徳寺。

時長

大園

明暦三年初見。萬治二年七月
十六日。生流毒。貞享二年二月
卒。葬同寺。

半在園門

政時

延暦八年八月廿八。初見。貞享三年

七月廿九日父部屋在三百俵与事
情。元禄四年八月十六日嫡孫承
祖家督不弟内。同日年十月七日
卒。四歳葬。口等。

大豊

二十

世之

實者中山出。時表長會。

此所家督事。病此年。其時
百集。部。五百。至。下。上。村。之。成。因。性
之。種。以。元。禄。四。年。十。月。廿。九。日。卒。改。村
跡。自。此。年。三。百。俵。中。事。情。實。永。三
年。九。月。廿。九。日。卒。元。禄。四。年。十。月。廿。九。日。卒。

時

二十

應時

吉野

吉野舊門

元禄十一年四月廿八日初之。○應永
二年四月十八日元禄十一年三月葬
同日

半五郎

半右衛門

時當

傳者根来源三郎長忠重

霜永十一年正月十六日初之。○應永
七年正月廿五日及元禄十一年三月
再與吉野同心少左近衛左衛門
性直三言儀。○同九年七月十九日
家督。○同十一年正月廿八日大坂
中目付式小服。○同九年九月廿日海
福。○同十一年四月廿七日元禄
二年葬。○同日。

昔身才者叙爵。同日。服。宿曆
乘七月廿三日。中務定也。同日
年三月廿九日。中務定也。同日
八月廿三日。中務定也。同日
同日。八月廿三日。中務定也。同日
同日。八月廿三日。中務定也。同日
同日。八月廿三日。中務定也。同日
同日。八月廿三日。中務定也。同日

日里威德院

大隅。大。函

時壽

程乘原

延享四年十月廿八日。初七日。寬延
元年十月廿三日。中務定也。同日
同日。十月廿三日。中務定也。同日
同日。十月廿三日。中務定也。同日
同日。十月廿三日。中務定也。同日
同日。十月廿三日。中務定也。同日
同日。十月廿三日。中務定也。同日

中世止座。○同四年五月十日
日世世唐皇孫。○三年石之成。
同七年八月五日。父山世世。○
中世之。○今元和。○日八年
元和。○元和。○日十年
元和。○元和。○日十年
元和。○元和。○日十年
元和。○元和。○日十年

時章

信橋

常南門

安永三年四月七日。家督。○同年
十二月廿二日。初之。○天明元年正月
十九日。元三年。○元三年。○元三年

時倫

知陣

乙次郎

時倫

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

大猷院殿御代

中山

○ 藤原姓

高五百石

家義 三文字 松皮 丸内 三階 兼

中箱若園内勝政者中出此属

忠直長男

宗太夫

豊忠

後 時忠

大藏院僧正代部所任別殿之官兼大僧
事。

清物院僧正兼院頭。自享五年八
月廿九日葬龍興寺。一名

藤吉美

勝政

實者長谷川形部西登二重

寬文八年八月廿九日初見。曰平一
年八月十日櫻田殿表忠性
武百儀。自享四年七月十八日
伊波書加秩百儀。元禄元年
十二月十五日老骨四百廿儀
。同二年正月十日山本姓書頭
都立五百儀。同十年正月二
日葬山本龍興寺

五部大夫

勝安

元文三年十二月四日奉旨。實
保三年十月晦。中書院書。實
曆三年十二月十四日奉旨。同書

五部大夫

書三部

勝平

實者中書長官矣。所改者。實

實曆三年十二月廿五日奉旨。實

明和五年十二月廿五日奉旨。實

安永八年四月十二日奉旨。實

天明元年五月廿五日奉旨。實

同六年閏十月廿五日奉旨。實

八年正月九日奉旨。實

吉澤所

勝切

曾者少彦原孫殿出持易力重四

天明七年十二月廿一日 辨子

同八年五月廿三日 家督

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

東照宮御休

中山

高四郎

藤原姓

家教

[Small characters: 交字 藤原 幼内 三相]

中會家大補勝則重精衛門

勝政五郎

定衛門

[Small character: 道]

道及

忠直

身月市考各百卷之冊子

東照宮中見之。慶長十六年

台德院殿。其在火既而陣出後。寬

永九年

大藏院殿。同身領我山如好新下

後寺香部郡郡合四首石大佛事。

中矣寺畫之氣。寬文五年四月八日

天和元年九月廿三日。九年

蘇古島龍身事。長

三

臨

忠勝

兄去去美。三。更。別。信。七。更。月。〇

會。物。取。〇。寬。文。四。年。八。月。十。三。日。

知。之。〇。同。五。年。四。月。八。日。家。督。大。

中。五。〇。元。禄。三。年。十。月。廿。七。日。

延寶四年

三辭次

勝頭

延寶四年二月廿八日初九日
三年十二月廿六日
二月廿六日
廿六日病之。享保五年七月

永

三

廿五元花五才
剛寺

三辭次

吉才

勝頭

享保八年三月廿二日
享保九年九月廿九日
享保十年十月廿六日

中書。寶曆三年閏十月三日死。四
十五歲葬。龍興寺。

三井園

錦江中

勝親

寶曆三年十月廿七日。家督。同
八年十月廿八日。初之。同九年。有
十六日。中書。同十年。四月十八日。

外

外

新山書。安永三年正月廿七日。死。年
四十五。葬。同寺。

精三郎

志三郎

勝將

寶曆三年。勝將改會。
卷子。安永三年閏十月廿五日。死。
年。同五年十月廿五日。初之。

天明二年二月廿四日大書。四年
二月廿三日新書。四年九月
九年二月廿三日新書。

抄本七

勝直

實者勝直三書

天明二年九月十六日新書

書

享元年大正者。自享元年新出書
四卷。元禄五年七月廿八日
相國中書。同享元年書信。同享年
新出書。享德三年病之書信。死
葬之天德寺中榮壽寺

遺書

享德三年

勝季

中書 隆慶門 金幣

求馬

實者中山權衛門勝尋會
享德五年十二月廿七日家督。同
享德五年六月新出書。同享年
十月廿五日享德四年葬同書

次光

賜在中央史記三卷

求馬

求馬

享祿五年十月廿五日朔
元年十月廿五日
日廿八日

宝元

此所書門

會者鳥次大夫忠烈五男
元文三年九月

四月廿五日
老之禮金二枚。

直心

忠次郎

會者平井全賴直次郎
安永二年五月廿五日
改三年八月八日

中井

有德院

中井

友尔姓

家紋

中井源左衛門儀久男中井
大左衛門儀政惣領

猶右衛門

儀似

貞享五年二月廿一日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

安官寺新見... ○元
祿元年十一月廿九日家造 ○享保
元年正月晦日

有德院... 今部

○同年六月廿九日

所人... ○

享保七年七月廿四日

天英院... ○元文

二年... 相勸老義

伊... 同

育... 同

至... 同

高... 同

死... 同

淨... 同

富... 初

儀剛

享保... 同

見習部員長云○同十九年十月
廿二日表沙者所人沙切并早儀
○同^年十月之旨家格沙切并
口指儀之人技持云下○寛保
元年十月廿四日沙胎所沙老
所人云作身沙是云拾教云上並
故公云指儀之人技持○延享二
年十月廿七日西九上沙移替
之形沙儀○寛延三年十月

大日組附儀○寛曆元年十月
廿七日

有使院儀 豊清寺同年七月

十四日

大納言儀所○同十年十月十三日
御堂九上沙儀○明和六年十一
月九日西九上胎所組儀○安
永六年十月廿一日西九表沙儀
所儀○天明八年十月廿七日

明治十年十月廿九日
同日廿月二日
小菅清入
死七十八年同日

儀智

松本

明治七年十月九日
表
七月廿三日

因六年四月廿一日
因九年九月
時辰二

めくられず

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

申照嘉御代

中升

權姓 始 巨勢

るわ百石主入替
家紋 輪送 權

武門宿称之三男小抽之宿称之
後胤巨勢御屋吉乾嫡子巨
勢源三郎正範因五百石
俸不足方去て乾の成と成
故に和民人乾源三郎と云

天文七年二月朔日首并順慶
上萬歲儀本寺一殿之別巨勢
孫之房和兵家村石橋三村
此住不知年子一男一男巨勢孫
大夫正名二男巨勢是大夫正利
巨勢是友人九和及海人住二男
巨勢是大夫正利後紀勅勅勅
有德院敎師代正正出當時西九
為書院者以巨勢日向寺火海院

求馬之助先祖三男巨勢
孫大夫正名嫡子

大和寺 友右馬

正清

天正十六年於御見

東照宮御見是也
武白石以下具部苗字巨勢
古以中井住者分上之天後言
石多如信之下正正正正

加増市に在る部外判物朱頂戴
仕立相違ふに慶長十一年徒在
下大和守に作年同十四年
十月八日加増市下並大和國
活下郡城村外川村小和原
三ヶ所を教令子名に御馬印
頂戴仕大和守名に御馬印
以下並今に不持仕

一 加増市に在る部外判物朱頂戴
公方家より免許之後に及
用呂村紙菊物申井大和守より
道中之吟味に在る部外に及
沃用市に在るに作年同十四年
刻為御軍役未及御免之
於市に澄文あり他言に仕立
圓ヶ原御陣之後由御免に
六國大上杉人教令万石

人余高没之事御領私領大
御免成下向没御軍没之
勤勞 上意大和守之配
仕名以作有以之没大工田白
高没御免許之没寛永十
年九月七日寛文六年九月
十日寛永八年八月廿七日
三月御老中方御奉書之
如前御免許之没之京都

御郡代 御奉書之没御領
右御奉書之没御領中并
言有之御又言有之御奉書
之通不之御持仕之没御領
年之御領之御領之御領
御大御領之御領之御領
没御領之御領之御領
大工御領之御領之御領
御領之御領之御領

一 關之原御陣不

東照宮御陣羽織大和与洋領

今一不持仕

一 紀元熊野心松志高与沙谷京
都志沙谷志他志高与志高与
三拾年出来獻仕仕仕仕仕仕
志高与志高与志高与志高与
不持仕仕仕仕仕仕仕仕仕仕

一 於駿府編田一夢入

一 上流儀鉄炮之書也大和与

一 上下並勢古仕仕仕仕仕仕

一 上意一夢相持仕仕仕仕仕仕

一 今不持仕仕仕仕仕仕

一 慶長九年大和与大城御城

一 中上流隠密志高与志高与志高与

一 相持仕仕仕仕仕仕

一 大坂御陣之御家来之者志高与

一 仕仕仕仕仕仕仕仕仕仕

一 上意流地之志高与志高与志高与

鉄炮其外武具多為打左之
大勢運沙伏仕茶臼山
而陣場之下高陣小高下置
右之箭牌長吉布次置
中平部一之右之武具
少之板後右打仕
慶長十三年

禁中方法多處可見
見今所用大和子
作板駿府

京都
燒失右之部京都
仕之部於
足許領仕
守造早之部守家
刀馬許領仕
持仕
燒失仕

同十六年

院御所清教法造管下成進言
作出徒後府大和子水定板念
伊賀子教下女房之奉書
清教御所仕下後上流右
奉書大和子右清左公定言
可仕言上意洋領今可持
仕言
一 同十七年一月十日
禁表御送管下 伊賀子

東照宮御下大和子頂戴仕
同日尾羽名護全御藏多
車下 伊賀子

東照宮御下大和子頂戴仕同日
伊賀子御下板駿御所
下下下言

東照宮御下大和子頂戴仕右
下下下言

一 大和子後

東照宮御具足之活領仕之駿府

与大和子不共類境之御右所

具足之嫡夫仕也

一 同九年

林右表御上棟之刻長

林右表御大乃月原從四位下之位階

大和子頂戴仕也

一 京都就御用大和子左系仕也

林右表 名實全御城大佛殿大

三少不之少御從四位下位

東照宮御機嫌之旨書卷中方

沙林

台位院御沙履次之方御御殿

与御沙林在河原今不持法

駿府御沙御進大和子之在選

御用之御相知御京師御

及御御御御九條御御

一 於駿府

東照宮御筆御後冊大和守洋領
仕今不仕也

台徳院御筆七歳之節御筆
在也天神之名號洋領仕
今不仕也

一 駿府御城御後冊之御書
筆御画洋領今不仕也

一 於駿府御城御後冊之御書
御筆御画御後冊御書御書
大和守表判仕御城御後冊御書
御城御後冊御書御書御書
御城御後冊御書御書御書

一 御城御後冊御書御書御書
御城御後冊御書御書御書
御城御後冊御書御書御書
御城御後冊御書御書御書
御城御後冊御書御書御書
御城御後冊御書御書御書
御城御後冊御書御書御書
御城御後冊御書御書御書

一
清寧寺書一今不持住
智恩院上代之唯今執至堂
之不亦清寧也

東照宮書好之在今之寺北板
倉伊賀之於下之住才堂社之
後以下大和之也 作才也

一 日光
清宮地見分之用却之也
於之承次大和之也 作才木於住

台徳院教奉儀上覽

一
清宮造管大和之也 作才也右
日光山之用才徒氣以職人天
之於下之山後板倉伊賀之也
大和之也 於南光坊信也
大和之也 書狀也今不持住也
增上寺也 於信也 於也 於也
也 於也 承次大和之也 作才
大和之也 法中 於也 於也

大和三年春正月
之頃身中忽染疾
親習國師大和
今年正月十日
年正月十日
辭

正好

正清中馬侯於駿府

東照宮
身為養子
元和三年七月
辭

正統

正統
大和
助

中井
徒

正信

大和

長吉

慶長十八年

東照宮

台徳院殿に古蔵を初見大坂
由度之御傳又一備所結
之後以大和を以て通式に
知所之石洋領○寛永四年
台徳院殿御朱印知所之石

正信妻

葬

海友深長忠女

重名一介の持○同年青
土有徒五位下大和を以て下○伊
系諸事は伊系位に御用定
て水勅旨○同八年壬辰又
大和を才中井中御助院
伴長吉御次喜子○同年
十月十日於伊系に批云領

和行子石之月也百名也
六百名也下也弟也成實永
十九年正月十六日從五條下大和
公傳身二行月大和子正娘之道
法事公相勤之後後是也退
名内通以与政慶安元年
之水正知家督為沙礼者
日自十二月於沙禮書院所
目見同日

竹久代君西元於沙白書院
御目見兼應三年從也任下
大和書也傳身也又附沙書也
相勤之京於也之沙眼洋領也成
而書也見也而也〇万治二年
而中丸沙書院也高也用身也
為百系府任也二月有於沙
白書院御目見沙書信也也
久世大和也教也傳身也也石也

仕度事類

若者院敷於 沙茶之水心之想
少秋之修儀之後中自於陳公後
如何之次不知○而於九月沙茶
沙道平沙梅徒之音沙音例
石原治法之仕方西九月去用
石原之何之仕 而與之者
百部部 而言葉之下 和與
之沙後右之方治法仕○月有

十日即月是同日京都沙眼
少致附時服二白服新○在府
中紅葉心

而社恭沙依友友○實鬼文元年
紫裏 院中與之身沙造是法用

十月七日 百部部八月廿日

而自見○同月廿七日京都沙眼
白服三枚○同九年十月廿六日
而新之治法之仕方長建

上関獲浪の積收并道山脈
所司代板倉内膳正取立任官○
寛文十一年十月十五日上方より
所用出精仕付候達 上関獲
浪の積收并道山脈 五年丁言り候
所獲浪の積收並道山脈有之候事
可司代永井伊賀守取立任官
○寛文十三年十月五日上方より
二月廿日所用見人○同日

父子及所收附時浪二○延寶
五年十月八日

禁裏院中御造官御用相勤
獲浪の積收時浪二頁合二枚將
長官御下下下○同七年十月
十五日所用影へ所用言能仕候事
勝手不如意之由御用中方面及
所用達上関白浪拾貫目上
下○天和二年九月十六日所用

治奉公精入相勅命 上聞
獲浪拾貫目下。○貞享三年
加秩少使持方二十人技持○同年
神代留為少法文子九年府
所自見○日青大分京都為取
時後三條領將上浪少技許領
○元祿六年之水正和將保家
新規少技持方拾五人技持○下
父子天少少去相勅命在作後

元祿十年之水正和後二條御
城大少少波損年少少名加
下和幼有少少技持少拾人技持
多下將源八部少後等因次可
和勅命少少後 中城內少少損
方帳由少飛連列仕下○元祿
十年丁丑月十日之夜二條御城
壬子色松少可通樞木町下上系
出火乃大火於場下所自入松年

紀伊守教人云其時有
家壞於火經後知火工及人救
亡救且消防之道其中心用意
不仕平明之年
而所方角二條河城由是天下
亦修後不亡色出火之初也其
棟棟梁并大工及百連消防
之道其用意為仕消防為
仕也後也云云

元

寶永七年丁酉十月三日
長且

東照宮御代高野信長用
作身之代沙在續於京都中
兼也沙用勤來以矩提以名
存也中接五人扶持○名淨是
之改正德永年四月廿六日死
同年十月

慶高

長五郎

岩有院敏冲代父之水正相打動月
久男相幼名爲身年相領事
相退福生之身年改名仕浪人
正正之元祿七年八月十一日死
同寺一葬

正雄

源八郎

初名長之助

常憲院敬印代父之水正相幼

少月見習○病身年身年秋海
相退之後松兵之右吉改正德五
年正月四日死同寺一葬

之水

初名長之助

正豐

渡邊者實巨勢老仙正德二男

寶永七年正月家造知行
右右左美加信持持湯役持
持右田信人持持養父之水也

清波○正徳元年江戸幕府
正月十日御目見○同月十日
京都清波御時服二○享保九年
件百連幕府御目見○同六
月六日京都古御時服二件
後三郎上白浪及洋領○同
二十年正月十日死同寺葬

嘉徳

嘉徳元年 正月十日

六

享保十五年正月十日是習
○同本年内正月七日家造初
之旨石并加増投物此給人技物
少役技物此給人技物不承下合承
通清波○寛延三年六月十日
此同寺葬

正徳

正徳元年 正月十日

寛延三年九月十日家造并

加増式拾人技打下○同日
年十月十日部方之候是又
云幾月夫近○國大工松木抗
前之通と配了仕旨○同日
七月廿九日水与改○寶曆
六年六月廿八日又附申取
事取技打或拾人技打○寶曆
六年八月十日江島山門法修
儀所用度限拾取○寶曆

六

六年十月廿六日○
女御所取所里沙取法修儀所用
度限十枚○同午十月廿八日
二條御渡所中余沙修儀所用
度限拾取○寶曆八年正月
廿九日江只敷多橋沙修儀所
見廻り度限拾取○寶曆
十一年正月廿五日
桃園院沙法事所用度限

武指投○寶曆十三年一月
山門沙修儀沙用慶銀
指五段○同十四年一月
清涼殿常品沙用慶銀
慶銀指五段○同年四月
候嘉波大橋小橋沙用慶銀
是日一慶銀拾段○明和三年
年四月九日所付之三
儀沙用慶銀拾段○明和四年

十月七日

准后門方沙別叙沙用
慶銀指五段○明和六年
根来在月知沙下江
富波以村百姓儀沙
免許之儀沙用大工
右儀沙用相尋儀沙
之儀沙用相尋儀沙

方上吏役免除相之公之
中是清之官河名之紙之部
信官之金之役不之役之因年
十月廿九日若相同十月廿九日
而免○同七年同六月四日從
小指之掛並大指之從後中
見是之官用廢限拾枚○同八
年十月二日

仙洞所所之官用廢限拾枚

同九年九月廿八日河名執事大指
中是清之官用廢限拾枚○安永
三年十月廿七日河名執事大指
並是清之官用廢限拾枚
枚○勤勤之役不之役之因年
明和八年申江之表之役之因年
之役之官用廢限拾枚
且病之官用廢限拾枚
河名執事之役不之役之因年

少用白布之紋具並花少
筆奉行少書字相傳少
少用白布之紋具並花少
而月見之先檢之通少
獻之○七月五日京都少
時後二○同七年八月所
三少書少檢法中研切相
白限拾枚○同年二月由
賀後少送留少檢法少用
後

後
後檢法○同年三月三日
院少檢法少用白限拾枚○安永
八年二月十日檢法白
銀式拾枚○同九年七月十日
後檢法少法事少用後限拾枚
○同年十月八日泉涌寺少
後少用後限拾枚○同月十日
清涼殿少上院常少教之
少書少用後限拾枚○

天明年四月十八日 唯后
冲教沙引走法建修法寺修法
用慶銀拾枚○同年六月
十九日知恩院沙修法寺用慶
銀拾枚○同二年七月十九日
江及山門諸堂社沙修法寺用
慶銀貳拾枚○天明年七月十日
城助法大橋沙修法寺修法中
見上相動慶銀拾枚○同年

七月廿九日江及執事橋沙之
沙修法寺見上相動慶銀拾枚

○同四年七月十八日

豐化門院沙修法寺用

慶銀拾枚○天明八年六月十日

不可代三為慶沙修法寺用慶銀

七枚○同四年九月廿六日

禁裏 冲所方之外法寺修法寺用

○同四年十一月廿七日洛陽長香

寺ノ葬

卷之第

正紀

天明四年丁酉七月七日貝習○
 同八年丁酉月京都出火之節
 人数消防出精結多沙席之
 可建 神聽音。同六月九日
 沙書付之公作清○同九年丁
 酉月七日家督行并二十人

杖持外沙役杖持出拾人杖持
 如又付之助多○寛政元年育
 十七日又主米代

柿山裏 所方其外沙書信沙用
 之 作付之役不負外松平和泉寺
 之 信匠同年同六月五日申年申
 二條河内城外所外付之公書外
 諸沙役定諸指多沙書信沙用
 右勤公才為沙役書外白浪拾書役

○同平丁三月十日

禁裏 所方 造 入用 九 積
出 亦 諸 諸 負 人 未 割 培 成 多 以 欣
亦 成 格 別 出 精 亦 苗 元 為 乃
慶 災 白 辰 拾 枝 ○ 實 政 二 年 育
中 六 日 泉 涌 寺 乃 修 儀 乃 用 慶
限 拾 枝 ○ 實 政 三 年 丁 酉 月 十 五 日
禁 裏 所 所 方 外 乃 會 儀 乃 用

慶 全 之 枝 同 日 城 品 從 大 橋 間
小 橋 乃 是 也 乃 會 儀 中 又 早
相 勤 乃 慶 限 七 枝 ○ 同 平 育
每 日

吉 備 門 院 乃 奉 送 乃 法 事 乃 用
慶 限 拾 枝 ○ 實 政 三 年 九 月 二 日
城 品 乃 治 橋 乃 會 儀 中 又 早 相 勤
乃 慶 限 七 枝 ○ 同 平 育 智
乃 為 勢 乃 橋 乃 會 儀 中 見 早

復限拾枚○寛政六年七月五日
中宮御所沙遣之沙因掛、復限
拾枚別紙白紙一枚○同六年八月
表、糸上在十月十日、御目見沙遣
之火緒獻上○同七年九月九日京都
沙眼時取二○同七年十月五日
中宮御所沙遣之間、沙床下濕
氣高、沙損、有之、沙名、信、信、信、
安、安、安、安、初之、安、安、安、安、

車、御目見、遠急之格○
同六月十日、沙免○寛政八年
八月九日

恭禮門院沙、葬送沙、法事沙
用、沙、復限拾枚○同九年同
七月、沙、自泉涌寺、諸堂社、法
儀、儀、中、見、早、相、勤、復限拾枚
○同十年、測量所沙、名、信、信、信、
知、了、為、沙、復限、紗、綾、二、卷、○

同十一年二月十六日山門諸堂社
少修後所用復原抄校同目送
七枚
手稿中見且相初身有
存藏

Handwritten text, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.

信院殿代

中井 名
之下

高小孫依

紀姓

家紋

并筒

長津一旗通長門弓矢之次男

取明石石橋山勢極高之古江中先一者
現存感服あり一者思妻之考過一之古橋小矢紋

大布一屋中井一店司一編右漢

中井氏祖坐一屋上稱一之系宗

河内國交野郡楠葉村所住中

井長之孫長光河内男

九敬

通交 皇太后 太后 利發 舊主

寶曆九年二月廿一日出統一白苑
らり。○甲午年四月廿三日評定所
白福書津用出後日甲午丁酉十月
十日右集限六枚洋紙御書。
甲午年二月廿二日先之山津用
津靈屋去外所之山所後書
山化事一方後後以○甲午年八月

山所限十枚石津用中甲午年
二月廿二日京大坂之山所田等小
方取之山所和權重八方無山所
漢川筋八分山用山所定分後後
伊奈事九卷之二先臨月廿六日嚴
令程由。○甲午年七月廿八日先
山所限津靈屋之外而之山所後
津用之山所和山所書限十枚
○甲午年八月廿九日先

○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日

○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日
○日本十二年十二月廿七日

しんあ承二年十月廿八日
日本分付廿二日
枚外より兼り付の
日本九月廿八日
をうけ有し
主役の時
京中
あつて
湯子

分し
江
お初
二年
五日
六月
甲
月
織

日二年八月廿三日評定新下
赤井豊前守一人金子用右衛門
知事一人調達任右衛門
少七由重少一人山井兼代金
比徳一人代在右衛門兼代後
西一人重井兼代定九郎
金子用右衛門兼代
代九兼代一人

かきく右定九郎の故
少一人代少一人花
且も兼代一人
新下赤井兼代
用右成かきく
地を死かきく
村方兼代一人
兼代の病を
り

才一の儀と兼略の事抄紙の珍
と道方とさ負の門と山切米
と放止とさ負利發田年ぬい
○は七の二日甲に日死六十に兼牛也
宗泰年一歳

宗傳

保元治平十郎重平里中

安永七年十一月に日之宮勲の
ふりふは五日初也。○は○は○

口切定山切米百俵。○是の元年
七は日又飛騨助代大系飛平年
ふ死而由ふ山形一粟也後人作
付りと一ふり又のふ記代抄見
傳り一は日甲二日山切米令取
口年十二日山切米百俵。○は年
六月廿二日又治平文也山切米百
口切米百俵と一は新記も年後下
ふれふも後入者取は○十一月



其の... 乙卯年二月...

Faint, illegible handwritten text in the center of the right page.



